

郷土沢川流域協議会提言【治水対策】に対する『 芦部川河川改修修正案 』

飯田建設事務所

平成18年5月10日 第11回郷土沢川流域協議会

区 間		河 川 改 修 原 案 [当初：平成16年2月17日 第2回] [最終：平成16年12月14日 第9回]	提 言 概 要 [平成16年12月14日 第9回]	河 川 改 修 修 正 案 [平成18年5月10日 第11回]	
				当面の対応	
A 区間	300m	・護岸勾配を5分から1割へ引堤する。	<p>下記 ~ の3つの意見併記。</p> <p>1 割引堤は沿岸の家屋、工場への影響が大きいため、 5分引堤 現況護岸の嵩上及び老朽化部の積替(補強)</p> <p>村中心部の重要区域であり理想形に近くするため、 1割引堤(原案通り)</p> <p><u>下流部を最優先に着工し、一日でも早く安全性の向上を図るべきである。</u> <u>堤防天端幅や勾配・兼用道路等の基準を緩和し、隣接地への影響の減少、</u> <u>事業費の軽減につなげるよう柔軟に対応すべきである。</u> 本区間においては親水性や多自然型川づくりよりも治水安全度の向上を最優先とするべきである。</p>	<p>沿岸民地への影響を少なくし、早期に治水効果を発揮するため、提言の を選択する。</p> <p>現況護岸の嵩上げ及び河床整理を行い、流下能力を確保する。(嵩上げ高さ0~20cm)</p> <p>同時に老朽化護岸の積替えを行う。</p>	<p>用地買収の伴わない断面で施工し(堤防の拡幅、西橋の撤去は行わず)、早期に治水安全度を向上させる。</p>
B 区間	600m	・護岸工及び護床工を行う。	原案通りの施工を早期に望む。	<p>提言を尊重する。</p>	
C 区間	360m	・護岸工及び河床整理を行う。	<p>護岸工箇所は、<u>河床整理を実施すれば現状のままで小さな遊水池的な役割を果たし、下流の災害防止に役立つのではないか</u>という意見あり。</p>	<p>護岸工を行う。(護岸の嵩上げ、護岸の積替え)</p> <p>・施工区間、堤防天端幅は、沿岸の土地利用形態、家屋などの保全対象を考慮して実施する。</p>	
D 区間	360m	・護岸工及び護床工を行う。		<p>護床工及び河床整理を行う。</p> <p>・施工区間は、沿岸の土地利用形態、家屋などの保全対象を考慮して実施する。</p>	
E 区間	40m	・護岸工及び河床整理を行う。			
合 計	1,660m				

治水安全度は1 / 3 0

各区間の実施延長は現地の実情に合わせ柔軟に対応する。